

第2次胎内市食育推進計画 進捗状況



ふるさと胎内の恵みに感謝！

食で育む元気なからだ 豊かなこころ

本計画は、平成29年度から平成33年度までの5か年計画です。「食を通して健全なからだと豊かなこころを育む」を基本理念としています。以下に示す5つの基本方針のもと、「健康寿命の延伸のため、子どもから高齢者まで、食について関心を持って食を選択する力を身につけ、適切な食生活を実践する人を増やす」ことを大目標に、地域ぐるみ（市民・行政・園・学校関係者・食育関係者など）で食育への取り組みを推進しています。

1. 健康につながる食生活の確立

健康なからだところを育むため、栄養バランスのよい食事を規則正しくとる食習慣と食を選択する力を身につけられるよう取り組みます。



2. 地産地消の推進と食の安全の確保

地域の自然や食べ物に関心を持ち地場産農畜水産物の積極的な活用を推進します。
食の安全について情報発信します。

基本理念達成のための5つの基本方針

3. 食文化の伝承・発展

家族で食事をすることで家庭の味や食文化、正しい食事マナーが受け継がれるよう心の伝承を目指します。

4. 食を取り巻く環境問題への取組

食品を無駄にしない意識を向上させ、食材の購入から調理等においてごみの減少を図り、環境への配慮ができるよう取り組みます。



5. 人づくり・市の活性化

食育を推進する人材の育成や市の特産品の普及のため、家庭・地域・園・学校・行政等の関係者が共通認識のもと連携して効果的な食育の推進を図ります。



【平成 29 年度の目標進捗状況】

- ・小中学生における朝食の摂取率や主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べる割合は微増しました。
- ・肥満者の割合は園児、中学生で増加、小学生では減少しました。

評価指標	第2次計画策定時		現状値	H33年度の目標値	判定
朝食摂取率	小学生	94.2% (※1)	94.5% (※2)	策定時より上回る	やや改善
	中学生	88.9% (※1)	90.6% (※2)	策定時より上回る	やや改善
主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べる子どもの割合	小学生	35.1% (※1)	40.4% (※2)	策定時より上回る	やや改善
	中学生	34.0% (※1)	35.1% (※2)	策定時より上回る	やや改善
肥満者の割合 (園児肥満度 15%以上) (小・中学生 20%以上)	園児	6.46% (※3)	6.84% (※4)	6%以下	悪化
	小学生	11.9% (※5)	7.9% (※6)	9%以下	改善
	中学生	9.0% (※5)	11.5% (※6)	9%以下	悪化
食育を推進するボランティア	胎内食育PR隊	27人 (H28年度末)	30人 (12月現在)	35人	増加

- ※1 H25年度こどもの食育調査(胎内市) ※2 H29年度食生活アンケート(学校給食センター)
 ※3 H28年度新潟県小児肥満等発育調査 ※4 H29年度新潟県小児肥満等発育調査(提出資料)
 ※5 H28年度学校保健統計資料集(胎内市) ※6 H29年度学校保健統計資料集(胎内市)

【平成 29 年度的主要な取組】

● 各種イベントへの参加、普及啓発

- ・6月のほっとHOTまつりにおいて、地場産野菜を使った「五目豆煮」を試食提供し、米粉を使ったチヂミづくりの体験を行いました。
 栄養士による減塩のポスター掲示や1日にとりたい野菜・果物の量の展示も行いました。



- 8月の成人式において、朝食の摂取を啓発する資料を配布しました。
- 11月のいいもんまつりにおいて、紅はるかと米粉を使った蒸しパンづくり体験や、菊をもちでゆでて食べる体験を行いました。
その他野菜クイズや魚クイズ、食塩に関するクイズを行いました。



- 2月にはイオン中条店様において「たいない食育フェア」を開催し、減塩のための味覚チェックや簡単レシピの紹介などを行う予定です。

● 「胎内市食に関する調査」の実施

- 食品ロス*や地産地消の認知度、各家庭での地場産物の使用状況など、第2次計画を策定した際に未把握だった項目について、無作為に抽出した市民1,400人を対象にアンケートを行いました。現在回収している最中で集計が終わり次第、掲載予定です。

*食品ロスとは…

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。

● 伝承料理の調理実習を実施

- 食生活改善推進委員が黒川中学校の1年生対象の食育教室において、のっぺい汁を含めた4品の調理実習を行いました。
- 胎内食育PR隊が市内の小学生とその親対象の親子クッキングにおいて、雑煮、菊と大根おろしと枝豆のおひたしなど3品の調理実習を行いました。



● 食事マナー検討会の開催

- 食事マナーについて園、小学校、中学校と連携し切れ目のない指導ができるよう、給食主任者会議と同日開催で、食事マナーの検討会を行いました。事前のアンケートで各園、小中学校から特に問題と指摘されたのは、「姿勢が悪い」、「正しく食器をもてない」といった項目でした。検討会では現在の取組を共有し、今後どのように指導し、家庭へ周知していくかを検討しました。出された意見をもとに、統一した指導のためのマニュアルや媒体作りを進めていきます。

● 3010運動の啓発

- 3010 運動*啓発用コースターを作成し、市内の店舗に配布しました。
- 12月1日号の市報に「食品ロス削減 3010 運動」について掲載しました。

*3010 運動とは…

宴会などでの最初の 30 分、最後の 10 分間は席を立たずに料理を楽しみ、食べ残しを減らす運動のことです。

● 食育をになうボランティアの充実

- 6月1日号の市報で食育を特集し、その中で「胎内食育 PR 隊」のメンバーを募集しました。その結果、新たに 3 名が加入し、隊員は 30 名になりました。

● 米粉の使用・普及

- 毎月 4 日が「米粉の日」と制定されたのをうけ、4 日（前後）に学校給食において米粉を使用したメニューを提供しています。
- 胎内食育 PR 隊で開発した米粉のレシピは奇数月の 1 日号の市報の「たいないのごっつお」のコーナーやレシピ検索サイト「クックパッド」に掲載しています。
- 胎内市の教育研究会栄養職員部会の研修で胎内食育 PR 隊が講師となり、米粉を使ったメニューの調理実習を行いました。実習したメニューは学校給食で提供されました。
- 12 月のまるごとクリスマスのカップケーキ教室において、米粉を使用したカップケーキ作りを行いました。



【今後の取組の方向性】

- 特に子どもや若年世代の朝食摂取率が向上するよう、引き続き実態把握と各家庭への啓発に努めるとともに、成人式や中小企業の健康診断での健康ブース等において資料を掲示・配布するなどに取り組みます。
- 主食・主菜・副菜のそろったバランスのよい食事をする人が全世代で増えるよう、各学校における指導やたよりの配布、特定健診の結果説明会や特定保健指導、各地区での健康教育など様々な機会において、繰り返しその重要性について伝えていきます。
さらに、調理実習や市報、レシピ検索サイト等での簡単レシピの紹介に努めます。
- 地産地消の推進のため、関係機関との連携を深め、各イベント等で地場産物を使用したメニューを試食提供したり、レシピを配布したりして消費の拡大を目指します。
- 伝承料理を食べたことがある子どもや若年世代が増えるよう、伝承料理をメニューに取り入れた料理教室を継続していきます。
- 食品ロスの減少のため、市民や飲食店への普及啓発に取り組みます。
- 食育という言葉や意味を知っている人や、食育に関心のある人の割合を増やすために、各学校から配布するたよりに掲載したり、各イベントで資料を掲示したりすることに努めます。
- 食生活改善推進委員の養成講座を平成 30 年度に開催し、会員の増加を図ります。
胎内食育 PR 隊や農泊体験受入団体などの発掘にも引き続き取り組みます。
- 米粉を使用したレシピを開発し、市報やレシピ検索サイトに掲載したり、学校給食や地区での調理実習等に積極的に取り入れたりしていきます。



これらの項目を特に強化し、健康づくり課を中心に、家庭や地域、各園・学校関係者・食育関係者・関連課などと連携して食育を進めていきます。